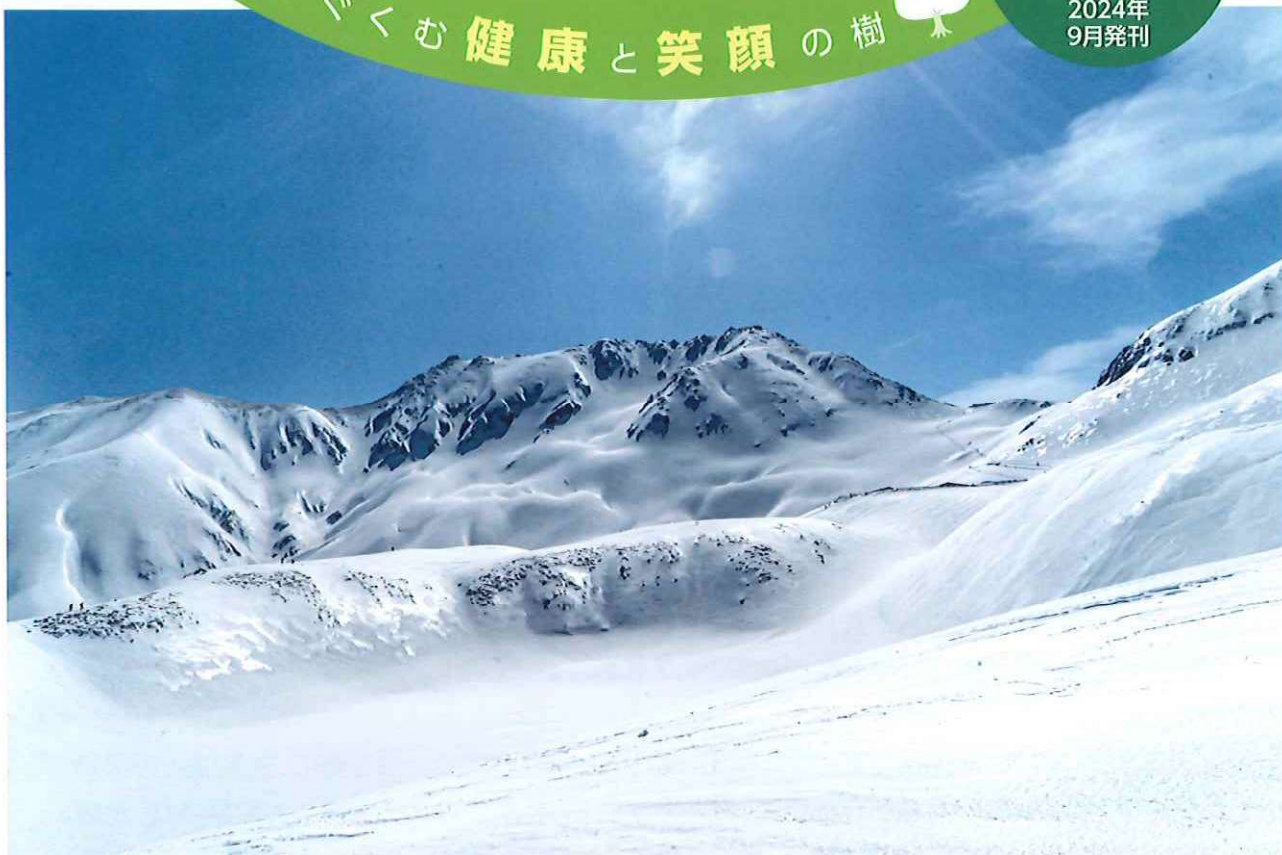


くすのき だより

心ではぐくむ健康と笑顔の樹

VOL.
40

2024年
9月発刊



撮影場所／エンマ台(地獄谷展望台)から立山三山を望む／4月下旬(写真／堀江 幸男)

就任のご挨拶

富山県済生会富山病院 院長

亀山 智樹

富山県済生会富山病院 副院長・看護部長

瀬山 尚子

トピックス

- 災害拠点病院に認定
- 「訪問看護ステーション」完成
- 「感染症対応室」完成
- 回復期リハビリテーション病棟の紹介
- 診療科紹介：消化器内科
- 患者満足度調査
- 第42回済生会北信越ブロックソフトボール大会
- 無料低額診療事業について
- 新任自己紹介
- 理念・基本方針



社会福祉法人 済生会支部
富山県済生会

富山県済生会富山病院
<http://www.saiseikai-toyama.jp/> hospital@saiseikai-toyama.jp

〒931-8533 富山市楠木33番地1
TEL 076(437)1111 FAX 076(437)1122
医療福祉支援センター
TEL 076(437)1120 FAX 076(437)1131



院長就任のご挨拶

富山県済生会富山病院 院長 亀山 智樹

令和6年4月1日から院長を拝命しました亀山智樹です。地域住民の医療・介護を支える、近隣の先生方や医療に携わる皆様と連携して、済生会富山病院が疾病予防から救急医療、高度医療、リハビリテーション、訪問看護と切れ目なく、また、災害時の医療拠点として、地域における役割を果たす病院となるよう、今後も努力を重ねます。

当院が富山市街中心部から現在の北部地区に移転開院し四半世紀余りが経過しました。その間、富山医療圏の二次救急輪番病院、北部地区の中核病院として、地域の医療福祉を担う皆様とともに、地域住民の命と健康を守るために努力してまいりました。年間3,000人を超える救急搬送患者を受入れ、緊急手術や血管内治療などの高度な医療も提供しています。近年増加している、集中的治療が必要な患者に対応するため、高度治療室(HCU)を運用しています。また、一次脳卒中センターとして、脳卒中患者の治療にも当たっています。さらに、急性期を乗り切った方々が住み慣れた元の生活へ戻れるように、回復期リハビリテーション病棟を設置しました。退院後は訪問看護ステーションが、かかりつけの先生方と連絡を取り、在宅で療養を続けておられる方へ手厚い看護を行っています。

医学が進歩し病気を起こす原因、経過が明らかになるにつれ、元気で長生きするために疾病予防がますます重要となっています。予防医学の充実のため、健康管理センターを増築中で、令和7年からの運用を目指しております。

また、近年目立つ大災害や異常気象への対策として、災害派遣医療チーム(DMAT)を整備し設備の浸水対策を行い、災害拠点病院として指定されました。

「患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供」という当院の使命を胸に、先輩諸氏の築いた病院を、働く職員の笑顔があふれる、働きやすい、働きがいのある病院へと発展させ、地域の中核病院として地域の皆様に信頼され選ばれる病院を目指して、職務を遂行してまいりますので、よろしくお願いいたします。



副院長・看護部長 就任のご挨拶

富山県済生会富山病院 副院長・看護部長 瀬山 尚子

この度、済生会富山病院の副院長・看護部長に就任いたしました。副院長という重責に身の引き締まる思いです。

当院では、「人生の最終段階においてどのように過ごし、どのような医療やケアを受けたいと思うか」について患者・家族の皆さんと共に考える取り組みを始めています。

実際の取り組みとして、昨年8月より全入院患者さんに「あなたの気持ちの確認用紙」をお渡しし、患者・家族の方の意向を確認していますが、用紙の記載率は全体の20.1%と低い結果となっています。患者・家族にとって最期の決断はとても難しく、「今急に言われても・・・」という思いになるのは仕方ありません。また、最期の最期まで選択した治療がこれで良いのか等、葛藤が伴うケースが多くあります。「もしものときに、どうしたいか」は、変わっていくことがありますし、どのような生き方を望むかは一人ひとり異なるものです。後悔のない人生になるよう私たち医療者が十分な支援を行いながら寄り添っていきたいと考えています。

当院の使命「患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供」が達成できるよう、日々努力を重ねてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

災害拠点病院に認定

済生会富山病院は、令和6年3月28日付で富山県より災害拠点病院として指定されました。災害拠点病院とは、近年目立つ地震や洪水などの災害で一度に多くの傷病者が発生した時に、災害医療を行う医療機関を支援する病院です。災害時に、限られた数の医療スタッフや医薬品・器材で、一人でも多くの傷病者の救命・治療にあたるため、機能に応じて医療機関等の役割分担をおこなうものです。主な指定要件として、災害時に多発する重症救急患者を救命するための高度の診療機能、被災地からの重症傷病者の受入れ機能、傷病者等の受入れ及び搬出を行なう広域搬送への対応機能、自己完結型の医療救護チーム（災害派遣医療チームDMAT）の派遣機能、地域の医療機関への応急用資器材の貸出し機能を有することが求められています。済生会富山病院は、災害拠点病院として大規模災害発生時には、近隣の医療機関や救護所と連携して被災された方々の救命・治療に尽力いたします。



新設された「災害用備蓄倉庫」の外観



備蓄倉庫2階には非常時のための防災リュックや毛布、非常食などを保管

「訪問看護ステーション棟」完成

済生会富山訪問看護ステーション 管理者 山本 恵子

「病気や障がいがあっても、住み慣れた家で暮らしたい」あるいは、「家族だけでは介護やケアが不安」、「一人暮らしなので心配」といった声に応えるべく、済生会富山訪問看護ステーションは、平成29年10月にスタートしました。

当初は看護師3名でしたが、多くの方々より頼りにしていただき、現在は看護師9名、事務スタッ

フ2名で取り組む体制となり、この2月には病院敷地内に「訪問看護ステーション棟」が完成いたしました。これによって、チーム意識がさらに高まり、より質の高い看護を提供すべく、スタッフ間の情報共有もより密接に行えるようになりました。

これからも患者さんやご家族の皆さんに信頼していただける存在を目指し、常に向上心を持ち、一丸となって取り組んでまいります。



完成した「済生会富山訪問看護ステーション」の外観

「感染症対応室」完成

感染管理室 千田 昌代

新型コロナ感染症の感染が拡大した時、病院では構造上の制約がある中でいろいろ工夫をしながら発熱外来を設置・運用していました。このたび、感染症の対応に必要な設備として資金の一部をクラウドファンディングにて多くの方からご支援をいただき「感染症対応室」が完成しました。場所は病院の南側で、救急車搬送入口近くになります。感染症対応室には陰圧が維持された診察室が2室あります。陰圧が維持された診察室は、室内の気圧を室外よりも低くすることでウィルス等で汚染された可能性のある空気を室外に逃さないようにして感染症の拡大を防止します。屋外への換気は、ウィルスもキャッチする高性能のHEPAフィルターできれいにした空気を排出します。症状のある患者さんは、一般とは別の感染症対応室出入口から出入りします。

今後の新興感染症の発生やまん延に対して速やかに対応できるよう、引き続き気を緩めることなく感染対策を行っていきたいと思います。



感染症対応室外観



診察室



待合室

回復期リハビリテーション病棟の紹介

リハビリテーション科 城戸 智之

当院は2次救急医療機関として、脳卒中や心筋梗塞の発症、突然の外傷など救急車で緊急入院される方も多くいらっしゃいます。早期の治療や手術が効果を上げると同時に、リハビリを行うことで身体機能が回復し、日常生活動作や歩行が可能になって退院されるケースがありますが、一方では、治療継続のため転院を余儀なくされることがあります。そして、中にはもう少しリハビリを行って自宅退院の目途がついてから退院を希望されるケースが少なからずあります。

そこで、令和6年度より6階を回復期リハビリテーション病棟としてリハビリを集中的に提供して、ADL(日常生活活動)の改善、歩行の獲得、自宅退院を目指す患者さんのニーズに対応していくことになりました。

当院は急性期からロボットリハビリ等の専門性の高いリハビリを導入しており、回復期リハビリに移行後も継続的かつ集中的に機能回復に取り組むことができます。また、当院は、合併症として多い心疾患等の循環器系疾患に対する医療体制が整っていることから、“循環器疾患に対応できる”回復期リハビリという特徴があります。

回復期リハビリテーション病棟は医師を中心に看護師と理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のリハビリ専従スタッフ、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー等の多職種がチームとして対応します。そして、毎朝のミーティング、ケースカンファレンス、回診と密度の濃いサポート体制になっています。

当院の回復期リハビリテーション病棟を退院されて、自宅に戻る時の患者さん、ご家族の笑顔を励みに急性期からの継続的な回復をサポートしていきたいと思います。



朝の病棟ミーティング



多職種によるケースカンファレンス



屋外での応用歩行練習

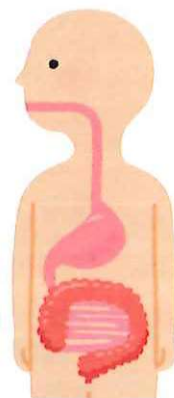
VOL.

4

消化器内科 ～消化器内科ってどんなところ？～

消化器内科では、主に消化管領域（食道、胃、小腸、大腸）や肝胆膵領域（肝臓、胆のう、胆管、膵臓）の検査・治療を行っています。常勤医師は4名ですが、専門性の高い検査や診療は富山大学や関連施設からの支援体制があります。

消化管領域の検査では上部内視鏡を毎日20～30件、下部内視鏡を5～10件程度行っています。内視鏡を用いた治療として、早期の胃癌・大腸癌では内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っており、大腸ポリープでは内視鏡的粘膜切除術（EMR）を施行しています。消化管領域の病気のうち、胃食道逆流症や胃十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）などは外来治療が主体ですが、出血を伴う潰瘍や大腸憩室の病気（憩室炎や憩室出血）、腸閉塞などは入院での治療を行います。内視鏡治療が適応でない胃癌や大腸癌、また良性の消化管疾患でも手術が必要な症例は、速やかに消化器外科に紹介を行います。消化管の悪性腫瘍のうちで手術適応とならない場合には、化学療法を行います。



肝臓の病気のうち、B型、C型のウイルス性肝炎は外来で治療を行いますが、それ以外の慢性・急性の肝疾患の診断や治療も行っています。肝臓の腫瘍は、詳しい検査を行った上で状態に応じた治療（手術や化学療法、塞栓治療など）を行います。胆膵領域では、エコーやCT、MRIを行い、胆のう炎や胆管炎、膵炎と診断された場合は必要に応じて入院治療を行います。

また、胆管や膵臓の結石や腫瘍性病変を認めた場合には、内視鏡による造影検査（ERCP）や超音波内視鏡（EUS）を行います。総胆管結石の場合は、乳頭切開術・バルーン拡張術による結石除去を、また悪性の胆管狭窄に対してはステントの挿入を行います。

最近、内視鏡治療が困難な胆石・膵石で体外衝撃波の治療にも取り組んでいます。胆膵領域の悪性腫瘍の場合にも手術が必要な場合は消化器外科に紹介を行いますが、手術適応のない場合は化学療法を考慮します。



消化器内科の医師（左から 石坂医員、菓子井統括部長、芳尾部長、後藤医員）

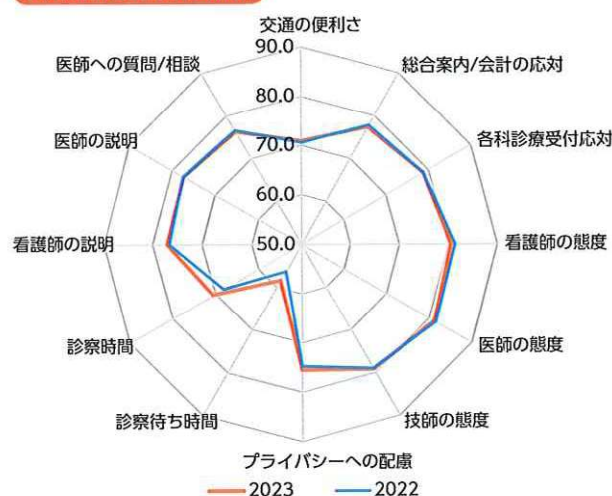
患者満足度調査

当院では患者さんにとってより良い病院を目指して、日々改善に努めております。その一環として毎年皆様にご協力いただき満足度調査をおこなっております。昨年度も実施させていただきましたのでその結果をお知らせいたします。

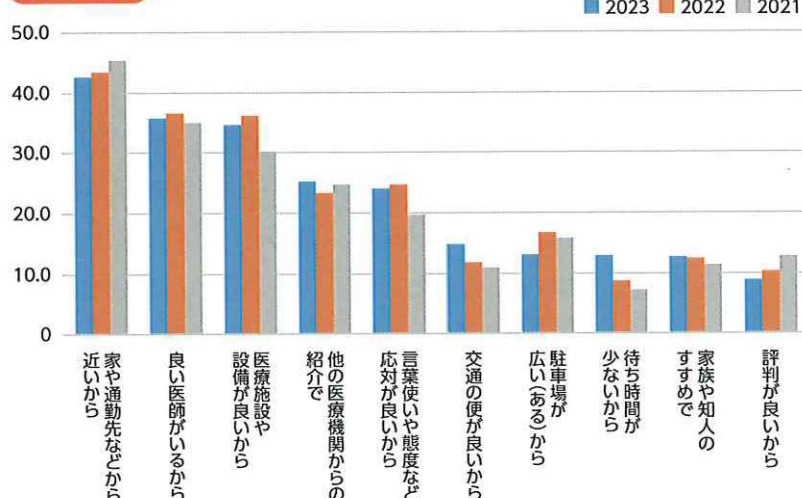
外来

特に満足度が低い項目は、「診療待ち時間」「支払い待ち時間」「売店/食堂/自販機」「交通の便利さ」でありました。診療待ち時間は少しずつではありますが年々向上しております。しかしながらまだまだ低い結果となっておりますので改善する様に努力いたします。交通の便利さに関しては巡回バスの導入を検討中であります。

外来満足度(項目別)



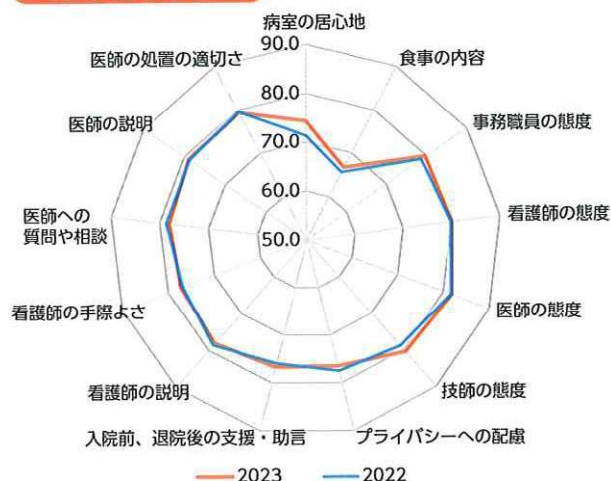
外来理由



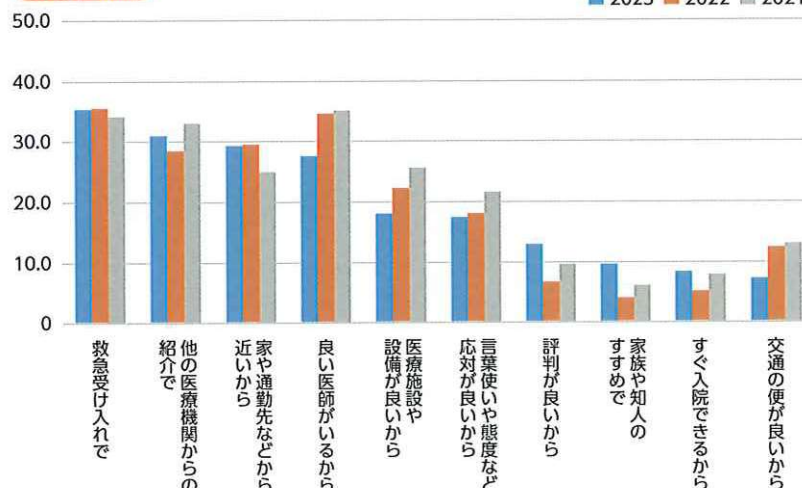
入院

毎年一番満足度が低い項目は入院中の食事に関することでありました。年々改善傾向ではありまがなかなか満足の得られる様な食事とはなっておらず頭を悩ましているところです。材料の高騰が一般家計と同様に病院給食にも多大な影響を及ぼしています。そうはいつても色々な工夫を行い入院中の満足度が高まる食事を提供できる様に今後も頑張りたいと思います。

入院満足度(項目別)



入院理由



結果を元に済生会富山病院は、患者さんに病気の治療はもとより色々な病院全体の向上を行い、ますます皆様にご利用していただける様職員一同頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



第42回 済生会北信越ブロック ソフトボール大会



リハビリテーション科 理学療法士 瀬島 知治

令和6年5月12日、富山県岩瀬スポーツ公園で済生会北信越ブロックソフトボール大会が開催されました。済生会ソフトボール大会は独自のルールがあり、試合は常時男子5名、女子4名で選手編成をしなければならず、投手は女子に限定されています。また、50歳以上の職員が各試合の初回に出場するという条件もあり、性別を問わず幅広い年齢の選手が出場できる大会となっています。大会には福井病院、金沢病院、高岡病院、富山病院、三条病院、新潟病院の6病院が参加し、全国済生会ソフトボール大会出場の1枠をかけて熱闘を繰り広げました。

今年は富山開催ということもあり、地元での優勝を目指して熱心に練習に取り組んできました。また、男女混合チームのため、守備位置や打順を熟考して、最も勝てるメンバーで試合に臨みました。予選リーグは、攻撃ではベテラン選手も若手選手も多数の本塁打やヒットを放ち、守備では3名の投手の継投と風速7～9m/sの強風をものともしない堅い守備で最少失点に留め、新潟病院を14-0、三条病院を29-2で圧倒することができました。決勝戦の相手は前回優勝の福井病院であり、予選とは違い2回まで両チーム無失点の締まった試合展開になりました。3回表に富山病院の打線が繋がり先制点を取ってからは、ミスをカバーし合いながらリードを許すことなく、福井病院に7-4で競り勝ち、2大会振りに優勝することができました。

大会運営に携わってくださった皆様のおかげで選手は試合に集中することができ、また応援に駆けつけてくださった皆様のおかげで120%の力を発揮して優勝することができたと思っております。これからも私たちを支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れず、11月に栃木県で開催される全国済生会ソフトボール大会でも優勝を目指して頑張りたいと思いますので、今後ともお力添えのほどよろしくお願いいたします。



済生会富山病院では 無料低額診療事業を 実施しています

無料低額診療事業とは、医療費を

減額 免除

できる制度です。



生計困難な方が経済的理由により、
必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、
無料・低額な料金で治療を受けていただく制度です。



例えば

このような時に
ご相談ください

- 病気や障害、失業などで収入がなくなり、医療費の支払いが困難な方
- 「医療費が払えない」と、治療を受けずに悩んでいる方

利用方法

利用にあたっては、一定の条件がありますので、
まずは患者相談窓口へご相談ください。
お問い合わせはお電話でもお受けいたします。

相談窓口

患者相談窓口 (1階エントランスホール3番)
TEL 076-437-1111(代)
月～金 8:30～17:30

毎月10日
無料低額診療事業相談会を
実施しています ※休日の場合は代替日あり

場所：エントランスホール 時間：9:00～12:00

相談は
無料です



ミッション(使命) 患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供

ビジョン(将来像)

- ・地域住民の健康寿命の延伸
- ・健康障害を抱える人々の生活の質の向上
- ・働きがいのある職場環境の形成

バリュー(価値観)

- ・医療の質向上をめざすこと
- ・地域に貢献すること
- ・自己研鑽と育成に努めること
- ・健全経営をめざすこと

行動指針 どのように考え、どのように行動するかの基本となる方針

- 私たちは 患者さんの立場にたって行動します
- 私たちは 患者さんの権利を尊重します
- 私たちは 信頼される医療を提供します
- 私たちは 生活困窮者を支援します
- 私たちは 働きやすさとやりがいのある職場をめざします
- 私たちは 同心協力の心を大切にします
- 私たちは 法令・規則を遵守します
- 私たちは 自己研鑽に努めます
- 私たちは 次代を担う医療人を育てます
- 私たちは 安定した事業の運営をめざします



患者さんの権利と責務

私たちは、医療行為が患者さんと医療者との信頼関係の上に成り立つものであり、医療は患者さん中心であることを深く認識して、ここに「患者さんの権利と責務」を定めます。

患者さんの権利

- ・個人としてその人格を尊重される権利
- ・質の高い医療を公平に受ける権利
- ・十分な情報を知り、説明を受ける権利
- ・選択の自由と自己決定する権利
- ・プライバシーが守られる権利

患者さんの責務

- ・自身の情報を正しく提供する責務
- ・診療行為に協力する責務
- ・療養に専念する責務
- ・マナーや規則を守る責務
- ・医療費を支払う責務

